

特集：情報環境の変容と教育

「情報」というキーワードを念頭に置いて本誌における歴代の特集テーマを一瞥してみると、2006年に刊行された『教育学研究』第73巻第2号において「情報化時代における教育学の課題」という特集が組まれていたことが目にとまる。当時、「IT技術の急激な発展」や「情報化時代におけるメディア変容」といった事態が取り上げられて、その両義性が意識されていた。趣意文は、一方において、「教育の効率化や個別化」や（「遠隔協力学習」などによる）「教育機会の時間的・場所的制約を取り払う」可能性について言及している。他方で、「今日の私たちは、「現実」が人間によって作り出された情報によってまるで万華鏡のように千変万化する時代の敷居に立っている」ことを告げ、「教育は、その在来の安定した居場所を奪われかねない」という不安を吐露している。

それから約20年が経過した。事態はどのように変わってきたのだろうか。上述の問題関心の多くが今もなお現代社会にも当てはまる。ただし、かつてと現在の状況は同じというわけでもない。その間、人間を取り巻く環境全体のうちに占める情報環境の割合は高まっていった。デジタル・テクノロジーの発展によってもたらされた情報のネットワーク化とその拡張は、量的にも、質的にも、また更新の速度にしても、さらには情報への接続性という点でも、飛躍的に進んでいった。20世紀の後半、マーシャル・マクルーハンが進化していくメディア環境をまだ人間意識の拡張として捉えることができていたが、現代ではむしろメディア環境がもとになって「人間」的なものをそのメタファーとして捉えるような傾向さえ見受けられる。現在における時代診断にみられるのは、環境が変化したということだけではない。そうした環境変化が人間を変えており、また環境と人間の関係性をその根底から変質させているというイメージがそこに浮かび上がる。

情報環境の変容は社会の多様な領域に大きな影響を及ぼしている。むろん人間と環境との相互作用（人間形成／文化形成）やそれを媒介する営みとしての教育もこうしたことと無縁ではない。新たな情報環境は教育にとって肯定的な側面を有している。たとえば、新たな情報環境は脱「人間中心主義」的な発想をもたらすのではないかというメディア論の期待を反映して言えば、ポストヒューマニズムの教育に関する考察がそれとの関連で展開されるかもしれない。逆に不安の方がせりあがる場合には、人間が情報のネットワークの結び目と化してしまうのではないかとの危惧をもとにして、教育における人間関係としての側面の行方が批判的に論じられるかもしれない。こうした希望と不安の間には多様な立場のグラデーションがあり、また関心の方向性によってさまざまな具体的な議論が成り立ちうる。

20年前の特集では、「情報化時代における電子メディアの一般化は、教育に根本的な変化をもたらしつつある」と綴られていた。状況の相違はあるが、これとほぼ同様の言い回しをここでも繰り返すことになるだろう。近年、AIを含むデジタル・テクノロジーの発展によって情報環境は急速に変化しており、そのことが人間形成と教育に根本的な変化をもたらしつつある、と。このことについては、メディアや情報とかかわりの深い専門領域においてはもちろんのこと、さらにそれを超えたより広い領域での議論が求められている。現状は流動的で、その方向性を見定めるこ

とはままならない。見通しがたさのなかで私たちはまだ戸惑いのなかにあるが、21世紀の四半世紀目に何が生じ、それに対してどのようなことが考えられたのかを記録するために、「情報環境の変容と教育」のテーマをここに刻みたい。今から20年後にそれらがどのように眺められるのかを想像しつつ。

テーマ例：

- ・新たな情報環境がもたらす公教育と私教育の境界の変容
- ・「認識的信用/警戒」のレッスンとしてのメディア教育
- ・表象の生成・加工技術と知の信頼性の再構築
- ・バイタルデータを用いた教育実践の可能性と限界、あるいは危険性
- ・デジタル・テクノロジーの進歩と「測定文化」の帰趨
- ・デジタル・テクノロジーによる表象可能性の高度化と教材の変化
- ・現代の情報環境を踏まえたデジタル教科書・教材の利活用
- ・ビッグデータを用いた授業改善の可能性と問題点
- ・デジタル・ヒューマニティーズと教育学研究
- ・ソーシャルメディア隆盛時代における「経験」概念の問い直し
- ・アルゴリズムによる情報選別と共同性の構築／分断
- ・情報技術の歴史的変化からみる現代の教育
- ・AI エンハンスメント技術は教育に何をもたらすか
- ・個人情報加工にかかわる犯罪と子どもの保護
- ・情報環境の変容にともなう性と教育に関する議論状況の現在、あるいは未来
- ・デジタル・テクノロジーと子どもによる文化の創造
- ・AI時代における「ウェル・ビーイング」の意味と教育
- ・カストロフィを再現する表象技術と教育

締 切：2026年7月31日9：00必着

送付先：日本教育学会機関誌編集委員会 オンライン投稿システム

* 本特集への投稿の際には、オンライン投稿システム<SOLTI>の日本語の入力項目【論文タイトル（副題がある場合には副題も含めて入力）※】の頭と、本文PDF内の主題の冒頭に「特集・」をつけること。そのほかは、最新の「投稿要領」を参照のうえ、投稿すること。